

トピックス

平成 17 年度インフルエンザワクチン株について

急速に秋が深まった感があり、そろそろインフルエンザに備える時期がやってきました。インフルエンザ予防の一つに予防接種があります。また、予防接種は流行が始まる前に受け、流行時にはインフルエンザウイルスと戦えるだけの抗体が体の中にできている状態を前もって作っておくことがより効果的です。

今年度のインフルエンザワクチン株については、厚生労働省医薬食品局長通知(平成 17 年 6 月 9 日付け薬食発第 069002 号)で、次のとおり決定されています。

A 型株

A / ニューカレドニア / 20 / 99 (H1N1)

A / ニューヨーク / 55 / 2004 (H3N2)

B 型株

B / 上海 / 361 / 2002

A ソ連型(H1N1)、B 型株は昨年度と同一の株ですが、A 香港型(H3N2)は昨年度の A / ワイオミング株(前のシーズンに日本を含む世界中で新たに流行株となった福建株(Fujian strain)類似株)から変更になりました。

ワクチン株の選定経過の詳細が病原微生物検出情報 10 月号^{*1} [26(10),10-12.]に発表されました。それによると、本年度変更になった A 香港型のワクチン株については、昨年度ワクチン株の A / ワイオミング株に比して抗原性が HI 価で 4 倍以上ずれた A / カルフォルニア / 7 / 2004 類似株が昨シーズンの後半から増える傾向となり、今シーズンの流行の主流となることが推測されるため、ワクチン株が A / カルフォルニア型のウイルスに変更されました。A / カルフォルニア / 7 / 2004 類似株のうち、ワクチンを製造するために必要な孵化鶏卵での増殖もよく、抗原性も安定している A / ニューヨーク / 55 / 2004 がワクチン製造株に採用されました。

一方、昨シーズン大流行した B 型インフルエンザウイルスの主流は山形系統でしたが、本年度も昨年と同様、山形系統の B / 上海株がワクチン株として採用されています。

平成 17 年度インフルエンザ総合対策について

厚生労働省から平成 17 年度インフルエンザについての総合対策が示されました。

今冬は、<手洗い・うがい>が基本です。インフルエンザは予防からという標語を掲げて、2005 年 11 月 7 日をキックオフデーとし、本格的に対策に取り組むとの内容です。

詳しくは厚生労働省のトピックス^{*2}をご参照下さい。

*1 平成 17 年度(2005/06 シーズン)インフルエンザワクチン株の選定経過

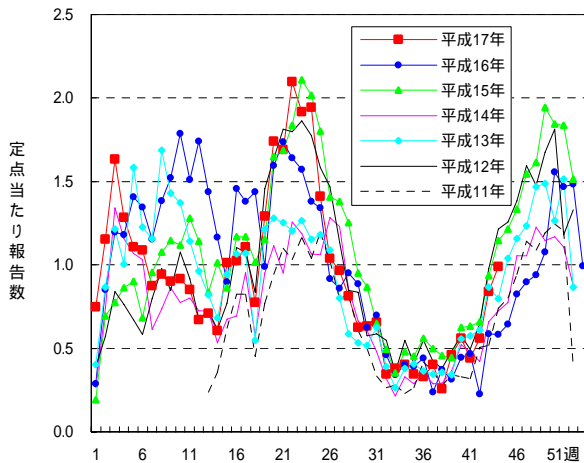
(<http://idsc.nih.go.jp/iasr/26/308/kj3081.html>)

*2 今冬のインフルエンザ総合対策について

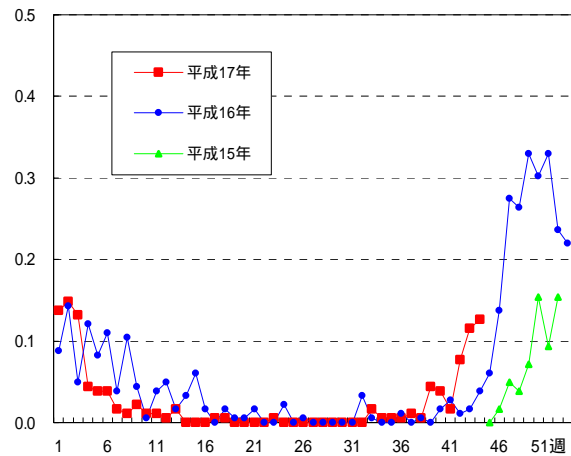
(<http://www.mhlw.go.jp/houdou/0111/h1112-1.html>)

流行状況

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



RSウイルス感染症



その他の疾病のグラフについては「グラフ総覧」(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/graph.pdf>)をご覧ください。

疾患名	定点当たり報告数		備考
	前週	今週	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.84	0.99	レンサ球菌のうち血清型分類のA群に分類されるものによる上気道感染症
RSウイルス感染症	0.12	0.13	RSウイルスによる急性呼吸器感染症で、2歳以下の乳幼児に好発する。

愛知県感染症情報センター (<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/kansen.html>)

国立感染症研究所感染症情報センター (<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>)

麻しん・風しんの予防接種方法が変わります (http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/hi_3.html)

平成17年度疾患別ウイルス検出状況速報 (<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/prompt.html>)

定点コメント（名古屋市除く）

尾張西部地区

6歳男 感染性腸炎 カンピロバクター
(*Campylobacter jejuni*)(+)

【一宮市 あさのこどもクリニック】

病原性大腸菌O18 15歳女

病原性大腸菌O146 2歳男

マイコプラズマ肺炎 6名

【一宮市 城後小児科】

ウイルス性胃腸炎が散発しています。

【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】

嘔吐を伴う感染性胃腸炎が増加してきました。

【江南市 みやぐちこどもクリニック】

47歳男 マイコプラズマ肺炎

嘔吐、下痢を伴った胃腸かぜが多い様です。

【春日町 丹羽医院】

尾張東部地区

病原大腸菌O1 4歳女
肺炎を含むマイコプラズマ感染症み
られます。

溶連菌感染症も多い。

R S感染症もある。

【瀬戸市 津田こどもクリニック】

溶連菌感染症急増しました。

咽頭結膜熱 4歳男

その他、水痘、手足口病、突発疹等

【尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院】

9歳男 カンピロバクター

【尾張旭市 旭労災病院】

ウイルス性腸炎と思われる症例が多
くなりました。

【春日井市 春日井市民病院】

アデノ感染症少々

胃腸かぜ続発中

手足口病少々

【春日井市 朝宮こどもクリニック】

咳が長びく例が目につきます。

【春日井市 竹内医院】

R S感染症が出現してきました。

アデノ咽頭炎の入院もあり。

【小牧市 小牧市民病院】

マイコプラズマ肺炎、R S感染症、溶連菌
感染が目立ちます。

【小牧市 志水こどもクリニック】

特に流行はございません。

【半田市 おっかわこどもクリニック】

普通感冒が多いです。

【大府市 まえはらこどもクリニック】

西三河地区

6歳男2名 strep A (+)

3歳男 病原大腸菌O6+カンピロ腸炎

【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】

カンピロバクター (+) 10歳男

【岡崎市 花田こどもクリニック】

病原大腸菌O1 9か月男

【岡崎市 竜美ヶ丘小児科スズキ医院】

7歳男 サルモネラO9

【碧南市 永井小児クリニック】

カンピロバクター 8歳男、7歳男

【刈谷市 まついこどもクリニック】

溶連菌感染症 5名でした。

【知立市 宮谷クリニック】

2歳女 病原大腸菌O25

6歳男 カンピロ

【西尾市 こどもクリニック宮地医院】

4歳女 アデノウイルス感染症

溶連菌感染症がやや多い。

【幸田町 とみた小児科】

東三河地区

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎とアデノ
ウイルス扁桃炎の子が時々います。

【豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科】

1歳女 ヘルペス歯肉口内炎

【豊橋市 野村小児科】

2か月男 川崎病

【豊川市 豊川市民病院】

一 ～ 三類感染症の発生状況

- 愛知県(名古屋市を除く。) -

腸管出血性大腸菌感染症

< 関連リンク >

(http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/eaggec.html#2_4)

番号	報告 保健所	年齢	性別	発病 月日	初診 月日	診定 月日	備 考
1	西尾	27	女		10 / 28	11 / 2	O157 VT1 (-) VT2 (+)
2	衣浦東部	25	男	10 / 26	10 / 29	11 / 1	O157 VT1 (+) VT2 (+)

四類・五類(全数把握)感染症の発生状況

- 愛知県(名古屋市を除く。) -

レジオネラ症 1 例 (66 歳)

(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/leg.html>)

ウイルス性肝炎 1 例 (C 型)

(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokede.html#5-2>)

後天性免疫不全症候群 1 例 (A I D S、推定感染地域:不明、推定感染経路:不明)

(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/hiv.html>)

破傷風 1 例 (79 歳)

(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokede.html#5-12>)

後天性免疫不全症候群 1 例 (45 週報告分)

(病名: その他、推定感染地域:国内、推定感染経路:性的接触)

43 週報告のマラリア 1 例 (推定感染地域: ブラジル) について削除報告あり。

愛知県衛生研究所企画情報部（文責 磯村）

朝夕冷え込むようになりました。庭の隅では今年も小菊が健気にも咲きはじめました。もう少し世話をすればよかったのに、と反省。ところで、いつも貴重な情報を有難うございます。

10月後半のまとめをお送りします。

- 1) 名古屋市内：名鉄病院福田先生からは気管支炎・肺炎などの下気道感染症が増加傾向でマイコプラズマ感染症も多い状況が続いていて入院も喘息性気管支炎やマイコプラズマ肺炎の重症例が主体でサルモネラを含む感染性胃腸炎が多少あり、城北病院渡辺先生からは熱発者が少しずつ増加しているがまだあまり多くなくRSウイルスも含めたウイルス性の気管支炎や細菌性のものが増加し入院例も多く、嘔吐下痢症が散発、アデノウイルスが主体でロタはまだほとんどなし、第二日赤岩佐先生からはウイルス性の腸炎（ロタウイルスはない）が目立つ、千種区今枝先生からは目立つ感染症なし、三菱病院入山先生からは感染性胃腸炎5名（カンピロバクターで要入院1名、病原性大腸菌O1が2名、O6、O18各1名）と目立ち、ムンプス2名、A群溶連菌咽頭炎1名、マイコプラズマを含む気管支炎・肺炎が十数名と目立った、中京病院柴田先生からはRSウイルス感染が増加、サルモネラO9感染症の家族発生あり、労災病院山田先生からは感染続発喘息発作、マイコプラズマ感染症、ムンプス、水痘、溶連菌感染症、RSウイルス感染細気管支炎・喘息、アデノウイルス感染症、ウイルス感染後の気管支喘息の入院など、それぞれ目立ったとのお手紙でした。
- 2) 尾張地区：犬山市武内先生からは感染性胃腸炎と水痘が散発、常滑市民病院上田先生からはムンプス、水痘、ウイルス性胃腸炎、感染性腸炎、マイコプラズマ肺炎の入院とムンプス髄膜炎の入院などが目立つとのお手紙でした。
- 3) 三河地区：トヨタ病院木戸先生からは喘息児が多く嘔吐のみの胃腸炎あり、RS感染症が出現、加茂病院梶田先生からは咳の長く続く子が多くマイコプラズマとクラミジア・ニューモニエのどちらかか両方陽性、手足口病がまだ少しあり、マイコプラズマ肺炎や気管支喘息の入院が多く下旬からRSウイルス感染症で入院2名、刈谷市田和先生からは感染症は少なくムンプスと水痘が散発、溶連菌感染症が増加傾向で手足口病がたまにあり、豊橋市宮澤先生からはムンプス、手足口病、ウイルス性気管支炎目立つ、とのお手紙をいただきました。有難うございました。

2005 年 10 月 21 日（80 巻 42 号） <http://www.who.int/wer/2005/wer8042/en/>

予防接種の安全性。WHO / ユニセフ合同報告：ワクチンで予防可能な疾患について、国別の予防接種の実態、予防可能疾患の発生状況が定期的にまとめられている。本報はの予防接種実態に関する 2003～04 年の進捗状況の概略で、については<http://www.who.int/vaccines-documents/Glo-balSummary/GlobalSummary.pdf>参照。国連世界社会経済調査により非工業化国と定義された開発途上国 165 カ国の調査結果である。1) 注射器材の安全性：注射器材の安全性(<http://www.who.int/vaccines-documents/DocsPDF99/www9948.pdf>) が接種現場で守られているのは途上国 165 カ国で 03 年の 55%から 04 年の 62%に増加、乳児の定期接種では 72%となっている（WHO地域別グラフあり）。安全性チェック体制については監視担当の上位機構が現場をチェックしている国は途上国で 03 年 75%、04 年 77%であった。2) 定期接種実施のための予算：04 年途上国 141 カ国のうち 67%の国から報告あり（03 年には 73%、報告率減少）ワクチンと接種器材購入予算は横這いないし東欧などでは減少傾向がみられた。3) 副反応サーベイランス：04 年、全世界各国の 68%にサーベイランス網があり、地域差や年次による%の差は認められていない（注：具体的な副反応頻度などの記載なし）。4) まとめ：安全性の維持のために必要な調査であり今後の充実が期待される。

感染症関連のWHOウェブサイト番号一覧

10 月 14～21 日届出。コレラ：ギニアビサウ、インド。

2005 年 10 月 28 日（80 巻 43 号） <http://www.who.int/wer/2005/wer8043/en/>

鳥インフルエンザ。インドネシア：10 月 24 日保健省発表。ヒト A (H5N1) 型感染確認例 2 例追加。1 例はスマトラ。4 歳男。10 月 4 日発病、治癒。21 歳の伯（叔）父も 10 月 10 日に発病の報告あり。2 例目は西ジャワ、23 歳女性。9 月 28 日発病し 30 日死亡。感染経路不明。現在までに同国の感染確認例 7 例（死亡 4）。

鳥インフルエンザ。タイ：10 月 20 日保健省発表。04 年 10 月 8 日以来 1 年ぶりに確認例あり。48 歳男性、カンチャナブリ県。10 月 13 日発病、19 日死亡。病鶏を処分している。同県でいくつかの鶏舎で鶏に大発生している報告あり、10 月 24 日にヒト感染確認例追加：7 歳男、発病 10 月 16 日、治癒。病鶏と接触している。タイにおけるヒト H5N1 感染例の累計は 18 例（死亡 13）。

黄熱。セネガル：10 月 11 日保健省発表。確定 2 例（死亡 2）、20 歳男性と 10 歳女、9 月 25 日と 30 日死亡。疫学調査実施中。保健省はWHOとユニセフ、国際協力機関の支援で 10 月 4 日から発生地区 15 万人にワクチン緊急接種開始。

エボラ出血熱（EHF）。南スーダン・ヤムピオ。04 年 4 月～6 月：04 年 5 月 6 日ヤムピオ郡保健当局とWHO南スーダン緊急事態対応ネットワーク（Early Warning and Response Network, EWARN）はケニアのEWARN に 7 例のEHF（死亡 2）発生を報告。5 例は同居家族、2 例は病院スタッフで 3 週間以上の期間にわたって次々と発症、症状は高熱と血性下痢、嘔吐。症状と家族集積性から EHF が疑われ 5 月 9 日WHOとケニア国立医学研究所（KEMRI）の専門家が現地訪問、疫学調査と検査材料 12 検体採取。5 月 16 日、KEMRI で

6 検体中 3 検体で酵素抗体法と PCR 法で EHF ウイルス陽性、米国疾病センター (CDC) で 12 検体中 10 検体から EHF ウイルスのスーダン型検出、確定された。5 月 21 日、WHO 南スーダン事務所とスーダン人民解放軍 (Sudan Peoples Liberation Movement, SPLM、注：スーダン内戦の反政府陣営) の保健担当局は EHF 流行を認め対策を開始した。本報はその概略である (注：かなり長文。ごく短くした)。流行への対応：5 月 20 日、SPLM は対策委員会発足。目標は 1) 発生の監視、2) 住民への情報提供と予防手段の周知徹底であり、同日 4 部会の行動委員会が発足、構成は 1) 社会活動・健康教育、2) 治療・遺体の埋葬改善、3) 疫学的・ウイルス学的サーベイランス、4) 人的・物的輸送と活動の安全確保のそれぞれを担当した。一方、WHO と関係国際機関の 10 研究所・機関を代表する 20 名以上の専門家が 2 か月近く対策に従事、最近のガボンやウガンダの流行の事例が参考になった。患者発見と同時に接触者は 21 日間監視、ウイルス学的検査は全て KEMRI と CDC で実施、ヤムピオ市立病院に隔離病室を設定した。地域住民活動：発生当初は住民の態度は非協力的で EHF に関して誤認、不正確な知識から受診せず調査の拒否が目立った。地区リーダーを中心に EHF 回復患者を含む 23 名のボランティアが組織され毎朝目標の村で戸別訪問、市場や学校、教会で患者発生調査と教育活動 (例：遺体に直接触れて添い寝するのが伝統的葬儀であり、家族内集団発生の原因となっている) を展開、活動の原点として WHO のパンフレットを現地語 (ザンデ語とアラビア語方言) に訳した教材の準備が重要で EHF 封じ込めに貢献した。遺体取扱い：WHO、CDC、国境なき医師団などの支援でヤムピオ市立病院で医師、看護師、消毒担当者、埋葬業者のチームが教育され、活動した。サーベイランス：従来の EHF 事例と同様 a) 確実な例、b) 疑わしい例、c) 可能性がある例、d) 検査室診断で確定例、の 4 群で登録。疫学・発生状況：発生期間は初発例発病 04 年 4 月 15 日、最後の例の死亡 7 月 26 日の 3 か月余。総計 17 例、13 例 (76%) が検査で確認 (月別発生グラフあり)。死亡 7 例 (罹患者死亡率 41%、平均 10 病日で死亡)、女性 41%、年齢分布は 6 か月 - 60 歳 (中央値 33 歳)。流行の発端は 1 名单発、ラジオ技師。獣医チームの調査では感染機会と推定原因動物はヒヒ。隣接のコンゴ民主共和国にヒヒ狩りに行き、発病 5 日前に肉と接触あり。伝播は全員連鎖が明確で 4 次発生に及んでいた。症状：全例発熱、強度の疲労感、筋肉痛、頭痛、下痢嘔吐、出血は 56% で消化管出血であった。同時期に麻しんの流行があり鑑別上問題となった。8 月 7 日、WHO は流行終息宣言を発表した。

10 月 21 ~ 27 日届出。コレラ：ギニア、ギニアビサウ、リベリア、モーリタニア、セネガル。

愛知県感染症情報

2005年第44週(平成17年10月31日～平成17年11月6日)

愛知県衛生研究所

年齢階層 (名古屋市を除く)	RSウイルス感染症	インフルエンザ (高病原性鳥 インフルエンザを除く。)	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	麻しん (成人麻しんを除く。)	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)	成人麻しん
計	13	1	26	119	253	76	72	4	105	1	0	11	0	94	1	29	0	1	12	0	0
～6ヶ月	6				2	1	1		8												
～12ヶ月	2		1	1	37	1	2		62							1					
0歳																					
1歳	2		5	2	32	13	18		33			1		2					5		
2歳	3		1	7	31	12	12	1	2			2		10							
3歳			6	6	34	17	14			1		3		14			1		2		
4歳			6	28	19	18	14	1				3		22		1					
5歳		1		30	11	7	4							19		3					
6歳			1	15	12	5	2	1				1		11							
7歳			2	9	10	1	2					1		5							
8歳			1	7	10		2							4		1					
9歳			1	4	4									2							
5歳～9歳																			1		
10歳～14歳				6	13	1	1	1											2		
15歳～19歳				1	5									1		1					
20歳～			2	3	33									4							
20歳～29歳																8					
30歳～39歳															1	5					
40歳～49歳																2					
50歳～59歳																2			1		
60歳～69歳																3					
70歳～																2					
70歳～79歳																					
80歳以上																			1		

愛知県感染症情報

2005年第1週～第44週(平成17年1月3日～平成17年11月6日)(累計)

愛知県衛生研究所

愛知県	定点数					RSウイルス感染症	鳥インフルエンザ(高病原性を除く。)	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	麻しん (成人麻しんを除く。)	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)	成人麻しん
	インフルエンザ	小児科	眼科	STD	基幹																					
愛知県 (名古屋市を含む)	195	182	35	51	13	202	80,238	2,813	7,380	31,888	10,778	2,704	936	5,311	58	31	12,414	22	8,575	25	1,443	11	8	226	0	1
総数 (名古屋市は除く)	125	112	24	37	12	153	63,773	2,147	5,063	22,844	8,664	2,234	743	4,106	45	16	9,754	14	6,806	18	1,112	11	8	226	0	1
名古屋	70	70	11	14	1	49	16,465	666	2,317	9,044	2,114	470	193	1,205	13	15	2,660	8	1,769	7	331					
尾張東部	瀬戸	9	9	2	3	1	16	4,172	511	664	1,217	435	68	36	224	2	2	673	3	293		40			65	
海部	津島	7	7	2	2	1		3,211	24	136	348	83	84	153	1	1	542		618		45	1	2	15		
尾張中部	師勝	4	4	1	1			2,064	2	140	725	229	35	22	90		1	404		196	2	71				
尾張西部	一宮	16	12	3	4	1	8	4,491	173	345	1,981	546	277	37	362	2	1	642		671	1	104	1			
尾張北部	春日井	9	9	2	3	1	27	7,535	386	445	1,408	633	201	34	416	12	6	908	1	307		60	2	2		1
	江南	6	6	1	2		12	2,731	179	531	1,848	703	109	43	411	1		782	2	554		54				
知多半島	半田	6	6	1	2	1	7	2,950	167	201	1,058	394	224	35	202	1		147	1	302	3	65			4	
	知多	7	7	2	2		9	3,766	139	428	1,152	428	68	29	289		1	459	1	438	1	27				
西三河南部	岡崎市	11	7	2	2	1	9	6,131	60	345	561	683	156	54	536	5		970		666	4	71				
	衣浦東部	13	13	2	4	1	8	9,033	82	464	1,909	1,101	150	138	389	3	1	1,013	3	645		200			13	
	西尾	5	5	1	2	1	12	1,893	20	229	776	445	172	41	189			503		233	1	29			2	
西三河北部	豊田市	9	9	2	4	1	18	4,651	45	440	4,876	818	154	65	355	10	2	1,150	1	541		114	3	3	97	
東三河南部	豊橋市	12	8	2	4	1	3	6,866	280	444	2,107	545	220	58	290	4		705		288	2	149	4		24	
	豊川	9	8	1	2	1	24	3,616	74	240	1,587	1,303	308	66	195	4	1	831	2	1,045	4	83		1	6	
東三河北部	新城	2	2			1		663	5	11	31	53	9	1	5			25		9						

愛知県感染症情報

2005年第1週～第44週(平成17年1月3日～平成17年11月6日)(累計)

愛知県衛生研究所

年齢階層 (名古屋市を除く)	RSウイルス感染症	インフルエンザ (高病原性鳥を除く。)	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	麻しん (成人麻しんを除く。)	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)	成人麻しん
計	153	63,773	2,147	5,063	22,844	8,664	2,234	743	4,106	45	16	9,754	14	6,806	18	1,112	11	8	226	0	1
～6ヶ月	65	319	17	11	355	222	21	2	282	13	1	108		7		8					
～12ヶ月	32	959	92	31	1,568	509	133	40	2,249	8		717	2	30		8					
0歳																	4		4		
1歳	27	3,279	348	146	3,336	1,469	531	45	1,456	4	2	2,153	3	312		36		1	33		
2歳	18	3,675	275	271	2,376	1,436	408	38	1,055	4	3	1,696	2	619	1	36			32		
3歳		4,334	421	563	2,103	1,805	423	80	13	3	1	1,716	1	1,103	1	49	1	1	30		
4歳	3	5,537	373	910	1,850	1,488	295	111		3	1	1,303	1	1,453		36			22		
5歳	3	5,475	250	1,022	1,607	861	206	122		1	3	934	3	1,206	1	29					
6歳	3	5,343	144	723	1,172	387	87	90		2		489	1	817	1	24					
7歳	2	4,021	70	448	863	191	38	67			2	257		442		13					
8歳		3,659	37	274	736	94	29	53		1		138		263	1	17					
9歳		3,188	34	192	571	50	17	41				89	1	159		9					
5歳～9歳																			55		
10歳～14歳		5,827	45	262	1,445	100	15	43	1	1	1	102		237		31			21		
15歳～19歳		993	4	27	508	11		1				9		24	1	29			2		
20歳～			37	183	4,354	41	31	10		5	2	43		134			6				
20歳～29歳		4,271													4	186		1	5		
30歳～39歳		6,135													3	306		2	6		1
40歳～49歳		2,631													2	100		2	3		
50歳～59歳		1,857													3	84		1	3		
60歳～69歳		1,149														63			5		
70歳～																48					
70歳～79歳		684																	3		
80歳以上		437																	2		